

## 総括討論



総合司会

吉田和浩

広島大学教育開発国際協力研究センター教授

基調講演者

フェイ・キング・チャン

元ジンバブエ国教育スポーツ文化大臣

セッション1モデレーター

プラサード・セートンガ

ペラデニヤ大学教育学部 学部長

セッション2モデレーター

二宮 皓

放送大学 広島学習センター 所長



## 吉田 和浩 (広島大学)

本日参加していただいた皆様、ありがとうございます。最後に参加者による総括討論で締め括らせていただきます。本日は午前中に特別講演と基調講演、午後に2つのパネルセッションを行いました。スリランカのセートンガ博士、二宮教授、基調講演を行って下さいましたフェイ・キング・チャン博士に前に来ていただきまして、意見の交換を行いたいと思います。5時閉会予定のためあまり時間はございませんが、この機会に本日のまとめと将来への展望を総括したいと思います。

この総括討論に関してのルールは別段ありませんが、本日行われた議論を振り返りたいと思います。午前中には松浦博士から万人のための教育および我々が直面している残りの問題についてお話を伺いました。これは経済危機による打撃だけではなく、新しく浮かび上がって来た問題にまで及びました。その次にはフェイ・キング・チャン博士が基調講演においてその問題は発展の役割と経済危機による衝撃の度合いにより変化すると述べられました。このフォーラムの基本テーマは2015年までと2015年以降の優先事項を調べることで、そしてこの2つの期間それぞれに生ずる固有の問題を乗り越えるために、2つの期間をどのように分割すればよいのか分析することです。パネルディスカッションを振り返ると興味深いことが判ります。現在で発展途上国か先進国におけるものかに関わらず、将来の学校教育は、未来に向かうためにはこれらの国が現在直面している問題を考慮しなければいけません。この点を膨らませるため、まず二宮教授にセッション2のパネルディスカッションを総括してもらい、その後に将来の学校教育について議論したいと思います。もしかしたら万人のための教育から欠けているなにかを特定することができるかもしれません。そのために、セッション1のモデレーターに議論を総括してもらいたいと思います。それに対して二宮教授から意見が出るかもしれません。このやりとりの後に、フェイ・キング・チャン博士および参加者のみなさんにも交流に参加していただきたいと思います。その後に一般討論へ移りたいと思います。

## 二宮 皓 (放送大学 広島学習センター 所長)

セッション2において、将来に対するシナリオモデルを発展途上国と先進国とでは同じように適用できないということに気がきました。メキシコの場合は柔軟な学校教育の提供が個人対応教育となり、マレーシアの場合はインターネットが社会を大きく変化させ、それに教育が対応しました。将来、2015年以降に現れるであろう問題はおそらく教師教育の必要も含むと考えられ、アフリカのブルキナファソでは、国家政府が教育開発に責任を負うべきかが大きなポイントとなっています。ムッチ博士が自主性についてコメントされ、特に学校をベースにした自主性を保ちつつ、教育の質が向上できるかとの疑問を投げかけられました。多数による参加を促すことでできるでしょうが、彼女はそれが成功であったかどうかは述べませんでした。さらに、私もこれが成功であるかどうかは判らないのですが、注目されるべきだと考えます。第2のポイントはこれらのような単純な推測を行うとき、可能性に繋がり、物事を考えるときに自分たちの価値観をインプットするものではなく、異なる方法論を使うよう考え方を変化させることを願います。できるならば、それに基づいた高いもしくは低い可能性をもって、我々はどの段階教育を除外するかを議論するべきでしょう。

## プラサード・セートンガ (パラデニヤ大学教育学部 学部長)

学校教育とはどうあるべきか。各国における異なる状況を基にした学校教育に対する提案がされ、セッション1での実践に関するプレゼンテーションは現状がどのようなものであるか、そして将来的にはそれがどのように注目されるべきなのかを示しました。その後、私は参加者からのアクセスについての質問に、単なる教育へのアクセスとしてだけでなく、スリランカで行おうとしている質の高い教育へのアクセスとして答えました。多くの場合アクセスは達成されますが、現実には一部の人たちのみで、無視される人たちが存在

します。アクセスが達成できても質がとても低く、教師への訓練も足りておらず、他のパネリストも同じような内容を語りました。

私は主流化について述べましたが、ガーナのチャールズ・アヘト-ツェガ氏は教員訓練はどちらかといえば補足的なものとし、ノンフォーマル教育にもっとインプットとリソースが必要であり、これは主流化のためのデータには含まれないことが多いということを強調されました。これはとても重要なことであり、スリランカにも当てはまり、多くの人が支持しています。3番目のパネリストの江口秀夫氏は保護者について、そして保護者の教育をどのようにするかをのべ、この点については教師が鍵になると JICA が強調しました。また、キャロライン・ロドリゲス氏が述べたように、この分野の指導慣行は変わるべきであり、スリランカでは教師がインクルーシブに指導を行えるように変革を行いました。チャールズ・アヘト-ツェガ氏を引用すれば「良い教師が大きな違いをもたらす」ということになります。また、2名のスピーカーが学校と政策立案者の間の話し合いを支持しました。江口秀夫氏は、これはあまり普通ではないだろうが、政策立案者と学校は政策を作るときには手を取り合って均等にサポートされるべきだと述べました。

### 二宮 皓（放送大学 広島学習センター 所長）

将来の学校教育といった場合、その定義はとても狭い学校における教育を意味することもあります。教育開発について話すときに含まれるべき、ノンフォーマル教育および他の形態の教育についても焦点を当てなければいけません。そのため、我々が初等教育の普遍化（UPE）に焦点を当てているため、学校教育という言葉を使う時、多くの場合それが普遍的な初等教育を意味することを理解していただきたいと思います。

### フェイ・キング・チャン（元ジンバブエ国教育スポーツ文化大臣）

この議論からわかったことの一つに、私たちは色々なニーズを持つということがあります。教師や教育へのプロ意識に対するニーズ、国家や国家開発へのニーズ、コミュニティのニーズ。これらのニーズは全て考慮され、国際的なコミュニティへと関連付けられなければいけません。

学校や教師に対して異なる要求がなされると、教師が学校とコミュニティのつなぎ役になります。また、その中に子供と親からの要求もあります。さらに複雑なことに各国は色々な段階やプロとしてのレベルにあり、さらに国内におけるレベルも異なるのです。コミュニティの一部である教師、大学教育を受け国際的な経歴を持つ教師は、この部屋に集まっている皆さん - 各国から集まり年間 \$350 を稼ぐ人がいる一方で \$36,000 稼ぐ人もいるという 100 倍の差がある - と同じ経済レベルにあります。これは教育に対してどういう意味を持つのでしょうか。より多くの教育を受けた人が多くの収入を得て、\$36,000 稼げる国へ行ってしまふことは良いことでしょうか。悪いことでしょうか？ジンバブエの人口 3 千万人中 3 百万人の人々が国を離れたことが良いことでしょうか？ある国では人口の 4 分の 1 が国を離れており、これは多くのアフリカ諸国において起こっているかもしれないのです。ナイジェリアにいるより多くのナイジェリア人医師がニューヨークにいます。これは世界の経済的・政治的な現実が一因として起こる現象です。富裕層にとっての教育システムはラゴスでもニューヨークと同じくらい良いものですが、貧困層にとっては大きな違いがあるため、そのため異なった経済発展レベルが生じるのです。

誰かがイスラム原理主義に関して、そして同じ国の中ですら異なる価値観を持つ人々がいる問題に関して、そしてこのことにより教育システムがどのような影響を受けるかについて難しい質問をしました。さらに状況を複雑にするのは、私たちの社会は変化し続けているということで、米国で 20 年前に起こっていたことと、現在のジンバブエのブルキナファソで起こっていることとは異なります。社会の変化に目を向けると、私たちの社会はかなりの速さで変化しており、同じ国の中でも様々な価値が存在する可能性があるため、私

私たちは社会における支配的価値が何かを認識していなければいけません。価値は国家と人々全体の根底として教育に影響を及ぼします。多くの変化が起こった後でも価値は変わらないものでしょうか？これにより、私たちはノンフォーマル教育と補完教育にたどり着きます。変化する社会において、20年や40年前に受けた教育は補完が必要となります。思想的もしくは技術的なものかもしれませんが、時代は進んでいます。20年前と言うと、確かインターネットやeメールを使うことができなかったはずですから、明らかに私は技術に遅れないようにしていたのです。思想的な価値はどうでしょうか？今でも同じですか？もし同じ価値を持っていたとすればわたしは恐竜です。変化を受け入れることなく、一つの考え方にとらわれている人同然です。教育カリキュラムを見て、数学と理科には国や文化に関係のない核となる知識があるとはいえませんか？ある宗教の価値を共有することはできないでしょうか？十戒を思い出される方もいるかもしれません。コミュニティの価値が実は似ていたとかありませんか？全てのコミュニティは貧困を克服しようとしているならば、それが共通の価値です。コミュニティが衛生と教育を向上させたいと考えるなら、それが共通のコミュニティの価値になります。私たちはこれを全世界視点で見ることができます。もしあなたが核科学者だとした場合、核科学者のコミュニティを見つけるでしょう。同じように、もしあなたが配管工だとすれば配管工のコミュニティを見つけるでしょう。似たコミュニティを発見する速度を高めるインターネットの発展によって、国際的な革新は助けられてきました。アフリカや米国、日本にいる人とすぐ話することができるという障害の無さのため、インターネットをコミュニケーションの質の向上と考えることができます。

最後に教育と開発に対する、ドナーによる介入の功罪という重要な問題を検討しなくてはなりません。ドナーによるインプットはマイナスになる可能性もあり、これは教育に含まれてしまうかもしれません。あるドナーによるインプットは大きなプラスになるかもしれません。どのようにして区別するのか、そして同じような評価を共有することはできるのでしょうか？吉田教授と私では同じ証拠を見ても、結果に対する異なった評価をするかもしれません。私がカリキュラム作成成長だったときに、牛に引かせる鋤を原型にした農作業道具を開発したのですが、皆震えあがりました。どうやったら中等教育で牛に引かせた鋤を教えることができるのか？なぜ政府はトラクターを使わないのか？しかしながら人口の75%はトラクターではなく、未だに牛に引かせた鋤を使っているのです。これは開発の段階と私たちが教育専門家としてどのように反応すべきか、という事柄に対する多くの疑問を呼び起こしました。

### 吉田 和浩 (広島大学)

プログラムによると、もう終わりにしなければいけません。セッション1とセッション2のモデレーターおよび基調講演者とのやりとりを聞くことで、発言の関連性やそれに対する反対意見が判ったと思います。残念なことに時間はわずかしかありませんが、一人か二人の参加者の方からのコメントの時間はあります。今のところコメントは無いようですので、これ以上まとめなくてもいいように、この総括討論を終了させていただきます。

出された意見は万人のための教育の目標と2015年の優先事項、そしてこれらの問題がどのように扱われるかを反映しています。討論の結果、国によってそれぞれ異なり、今後の学校教育は長期展望が必要だということを認識しました。学校教育と学校は別物であり、異なる形態の教育と学校教育が可能であることが指摘されました。これは指導方法や教材の開発同様、教師によって果される役割にも当てはまることです。本日の議題に戻りまして、コミュニティ、保護者、政策立案者によって果される役割はどのようなものであるかを検討しました。そして私たちが問題にぶつかったとき、国を越えた国際パートナーの役割はどのようなものなのでしょうか。この件に関して将来的な視点から考察できるのでしょうか。これらのアイデアを全てまとめたとき、私たちが現在の指導法について皆で一緒に考え、アイデアをさらに深めた結果はどうなるでしょう。

うか？もしそれが実行できるのであれば、今日のフォーラムから生まれた成功となります。将来のことを考えるのはとても難しいことですが、私たちはすでに歩みを始めていると思います。したがって、今日このフォーラムに参加された方を含む、すべての参加者からのインプットに感謝することでこの討論を締めくくりたいと思います。

これをもって JEFVII を終了したいと思います。このイベントを共催された4つの機関に感謝いたします。松浦博士、フェイ・キング・チャン博士と自国から日本まで来てくれた全てのパネリストのみなさん、会場にいる参加者のみなさんに参加して下さったことを感謝します。国連大学と国際協力機構のご支援に心からお礼申し上げます。最後に、しかし軽んじているわけではありません、同時通訳のみなさんに感謝します。これをもってプログラムを終了させていただきます。配付資料の中にある評価シートを記入して受付に渡していただけますと、今後のイベント開催にあたってとても貴重な情報となりますのでよろしくお願いいたします。

